

# 光風園創立50周年記念式典

## 2020年新年号特別版

### 創立50周年記念式典によせて

総務課長 勝部 正樹

光風園は昭和44年4月に開設し、今年50年の節目の年を迎えることとなりました。記念行事の最初の取り組みとして、記念誌の発行を行いました。記念誌の発行にあたりましてはご多忙の中、多数の関係者の皆様からご寄稿を頂きましたことを厚く御礼申し上げます。

記念式典には、出雲市役所・地元自治会・障害者支援施設・ボランティア団体など外部から35名の方々に参加を頂きました。当日は心配しておりました天候も光風園の50周年を祝うかのように晴天に恵まれました。式典前のオープニングムービーでは、一泊旅行・地引網・キャンプなど利用者・職員とも若々しく、とても懐かしい風景が流れていました。平成の終わりから令和にかけては民謡の有償ボランティアによる指導の風景や長寿の祝いなどそれぞれの時代を感じるものがありました。

記念式典では、最初に主催者を代表して島根県社会福祉事業団理事長が挨拶を申し上げ、続いて出雲市健康福祉部部长 岡慎吾様より祝辞を頂きました。その後、光風園に長年にわたってボランティアに来て頂いている7団体の表彰があり、大変に感謝した次第であります。今後も引き続き来て頂きますことをお願いいたします。

記念講演会は、「障がいがある人もない人も暮らしやすい地域」私たちを求められるもの」をテーマに、パネルディスカッション形式で行われました。島根県立大学の園山繁樹先生

をコーディネーターとして、4人のパネリストからの発表がありました。

パネリストの一人目は兄弟・施設職員の立場から、光風園職員千原綾祐氏、二人目は精神医療の立場から、松ヶ丘病院院長坪内健氏、三人目は当事者の立場から、山陰発達障害者当事者会スモステの会代表難波寿和氏、四人目は親の立場から、NPO法人松江市手をつなぐ育成会代表武田信子氏で、それぞれの発表に対して園山先生にコメントをして頂きました。千原さんに対しては「利用者さんや弟さんから様々なことを学んでいる。地域生活を支える施設は不安のない生活を創ることができ。」「というお言葉をいただき、坪内さんに対しては、「多職種間が学び合いそれぞれの立場・想いを知ることの大切さと、一人ひとり個別化した支援を突き詰めること、家族に寄り添った支援を行うことの重要性を実感した。」という内容でした。また、難波さんに対しては「当事者として発信することにより学びの幅を広げて安心して暮らせる社会へつなげる。そして信頼できる仲間ができる。」、武田さんに対しては、「親になる学びが必要であった。それにはカリスママたち・仲間の母親・保健師さんに助けられた。」という内容のコメントをいただきました。講演のあと意見交換があり、最後に園山先生から講演会のまとめをして頂き、とても有意義な講演会となりました。

皆様のご協力により無事に記念式典を行うことができましたことに感謝するとともに、今後も障がいのある方が地域の一員として、真に豊かで充実した人生を送ることができるよう、光風園の総合的な事業展開の継続を求められていることを改めて実感いたしました。





社会福祉法人 島根県社会福祉事業団  
光風園創立50周年記念式典



記念式典



記念講演会

